

自著と
その周辺

セイントとフランシスの総合外来診療ガイド

監訳 清水郁夫・徳竹康二郎

メディカル・サイエンス・
インターナショナル社
656頁
2009年
定価 6,510円

このたび、といっても昨年10月になりますが、訳書「セイントとフランシスの総合外来診療ガイド」をメディカル・サイエンス・インターナショナル社から上梓致しました。

原著は“Saint-Francis series: clinical clerkship in outpatient medicine”といい、総合内科学の第一人者である Dr. Lawrence Tierney 率いる UCSF の総合内科医達が記載した医学生～研修医向けの外来診療ハンドブックです。内科系のみならず、耳鼻咽喉科・眼科・婦人科・整形外科・皮膚科など幅広い領域を扱った良書であり、医学生や研修医が外来診療を学ぶ際のよき手引きとして一定の評価を得ております。

当院研修医らと行っていた輪読会で本書を用いたのが本書翻訳の出発点です。本書を選んだのは、そもそも私がこの本のファンであり、学生時代からその内容に惚れ込んでいたからです（ポリクリの際にも某アンチョコ本の代わりに私は本書の初版を持ち歩いていたのですが、決して私がへそまがりだったからではありません）。偶然にも当院後期研修医の徳竹先生も本書の愛読者であり、「実践的な本を」という初期研修医側からの希望があったとき、私達がともに真っ先に挙げたのが本書でした。さらに翻訳するだけではつまらない、せっかくだから出版できないか、との考えを抱きました。無謀なようにも思われましたが、昨春に集まった研修医をみて「このメンバーとならできる！」と期待しプロジェクト開始に踏み切りました。それから約1年半、本を目の前にして感慨を覚えるとともに、あの時の期待は誤っていなかったと確信しています。翻訳チームに当院研修医が携われたことは特筆すべきで、彼らの熱意と向学心こそがそれを実現させたのだと感じております。

内容に関して申しますと、上述の通り記載は多岐にわたっております。取り上げられている疾患はいずれも外来診療の上で知るべきものであり、分野にとらわれない記載は実臨床を反映しています。また診断に重点を置いた内容、特に病歴聴取と身体診察においても解説が充実しており、例えば四肢関節所見の徴候などは研修医向けの本でここまできちんと記されているものはあまりないでしょう。記載自体も単なる診療情報の羅列ではなく、“Hot Key”としていわゆるクリニカルパールを囲み枠でまとめており、的確なポイントをついております。さらにフォローアップや専門医への紹介のタイミング、また予防医療的な見地からのコメントも含まれており、簡潔ながら濃厚でかつ理解しやすいものとなっております。

翻訳に当たっては、本書の長所はそのままにした上で日米の診療で異なる部分に関しては注釈を加えました。また原著刊行時（2007年）から標準的対応が大きく変わった分野もあり、例えば感染性心内膜炎の章は最新のガイドラインに基づき記載を大幅に改め、原著者の了承のもと実質的に私達自身で書き下ろしています。若手内科医として知識の至らぬ点は当院各科の先生方にご協力を仰ぎ、本書の完成度を高めることができました。改めて感謝を申し上げます。

最後に、本書刊行により当院そして長野県全体の臨床教育環境がさらに充実することを期待しております。現在の初期研修制度は幅広い診療能力の習得を目標に設立されたはずなのですが、ローテートゆえの欠点としてかえって各診療科を統合的に学びづらくなっており、それゆえに何かしかの「ミニマム・エッセンシャルズ」があれば初期研修のみならず臨床教育全体への効果を得られるはずです。

本書によって私達の臨床教育への情熱を内外に示せたならば、この良書を私達の手で紹介できたのと同じくらい意義深いことです。研修とはある意味では与えられるものではなく作るものだと考えております。切磋琢磨するための場の提供にこの「セイント」が役立てば幸いです。

(2010年7月)

(長野赤十字病院血液内科 清水 郁夫)